

【小学校第5学年の実践】

1 主題名

国際親善に努める【C 国際理解・国際親善】

2 教材

平和の扉を開いた使者 新渡戸 稲造（北海道版道徳教材（小学校高学年用））

3 主題設定の理由【指導観】

(1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

国際理解・国際親善とは、他国の人々や多様な文化を理解するとともに、日本人としての自覚や国際理解と親善の心をもつことに関する内容項目である。グローバル化が進展する今日、国際理解や国際親善は重要な課題になっている。それぞれの国には独自の伝統と文化があり、自分たちの伝統や文化に対して誇りをもち、大切にしており、そのことを我が国の伝統と文化に対する尊敬の念と併せて理解できるようにする必要がある。また、現在、私たちが抱えている問題、例えば環境や資源、食糧や健康、危機管理などは、どれも一地域や一国内にとどまる問題ではないことを踏まえ、広く世界の諸情勢に目を向け、日本人としての自覚をしっかりとつことが出来るよう指導することが大切である。

第5学年の指導に当たっては、様々な文化やそれに関わる事柄を互いに関連付けながら国際理解を深め、国際親善に努めようとする態度を育てることが重要である。その際、自分のできることを考えるなどして、進んで他国の人々とつながり、交流活動を進めたりより親しくしたりしようとする態度を育てていきたい。

(2) 児童の実態【児童観】

国際理解や国際親善について考え、国際親善に努めようとする実践意欲や態度を育てるために、道徳科以外では、次のような指導を行っている。

①社会科「これからの食料生産」

世界の人々と共存していこうとする心情を育てるために、我が国の農業や水産業における食料生産の学習をする際、児童が輸入など外国との関わりに着目し、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割について考え、まとめたことを発表する活動を取り入れた。我が国の食料の輸出入品目や相手国、食糧自給率などについて調べることを通して、日本と世界の食料生産は深い関わりをもち、互いに支えあっていることを理解させることができた。日本と外国が互いを理解し合い、尊重し合うことの大切さについては、自分自身の生活やこれからの生き方に結び付け、自分に何が出来るかについて考えを深めるよう指導する必要がある。

②総合的な学習の時間「外国の文化にふれてみよう」

他国の人々の文化や価値観について理解し、国際親善に努めようとする実践意欲や心情を育てるために、国際交流学習を行っている。留学生の出身地の伝統や気候、文化、料理などについて調べる学習及び留学生との交流を通して、様々な国の文化や価値観について、理解を深めさせることができた。よりよい世界をつくっていこうとする気持ちについては、道徳科において自分との関わりからさらに意識を高めるよう指導する必要がある。

(3) 教材について【教材観】

他国の伝統や文化を理解し、尊重し合うことの大切さを多面的・多角的に考えさせるために、「新渡戸裁定」を下した新渡戸稲造の考えを中心に話し合い、価値理解・人間理解・他者理解を深めさせる。

そのために、一つ目の発問では、『自分の祖国を代表するのではなく、世界の平和のために働くべきである。』と行動した稲造の生き方をあなたはどのように思いますか。』と問うことにより、新渡戸稲造がどのようなことを考えて裁定を提案したのかについて考えさせ、人間理解を深めさせる。

また、中心的な発問では、『新渡戸裁定』が最善の選択として受け入れられたのはなぜでしょうか。』と問うことにより、他国の伝統や文化を理解し、尊重し合うことの大切さに気付かせ、他国の人々と交流活動を進めたりより親しくしたりすることについて、価値理解や他者理解を深めさせる。

4 ねらい

新渡戸稲造の生き方に触れることを通して、他国の伝統や文化を理解し、尊重し合うことの大切さに気付かせ、進んで他国の人々とつながり、交流活動を進めたりより親しくしたりしようとする態度を育てる。

5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導 入	● 「国際親善に努める」とはどういうことか話し合う。 ○ 「国際親善」という言葉を知っていますか。 ・世界の人となかよくする。 ・戦争をしない。 ・新渡戸稲造の言った「太平洋の橋になりたい」はどういう意味かな。	・「国際親善」という言葉のイメージを想起するとともに、新渡戸稲造を紹介することにより、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。	【工夫①】 ・新渡戸稲造を身近に感じるために、廊下に掲示してある「はあと・ふる」（新渡戸稲造「太平洋の橋になりたい」）を活用する。
展 開	● 教材「平和の扉を開いた使者」を読み、話し合う。 ○ 「自分の祖国を代表するのではなく、世界の平和のために働くべきである。」と行動した稲造の生き方をあなたはどのように思いますか。 ・自分の国のためだけに行動しないという考え方がすごいと思う。 ・紛争をしている両国から、意見を十分に聞いて、解決策を見出そうとしているところが、平等な人だと思う。 ・自分のためだけではなく、人のために生きることは、誰にでもできることではないと思う。 ◎ 「新渡戸裁定」が最善の選択として受け入れられたのはなぜでしょうか。 ・住民の願いを聞いてくれたから。 ・両国と住民の全員に利益があるように裁定してくれたから。 ・島の伝統や文化が大切なことを分かってくれたから。 ・認め合うことが大切だと思ったから。 ・ゆずりあう気持ちが大切だと思ったから。	・オランダ諸島の帰属問題と新渡戸裁定について理解できるように、地図と3種類の色の磁石を使い、簡潔に説明する。 ・稲造の生き方について、自分の考えをもたせることにより、人間理解を深めさせる。 ・「新渡戸裁定」が人々に受け入れられた理由を問うことにより、価値理解や他者理解を深めさせる。 ・ワークシートに自分の考えを書き、考えを友だちと交流することで、多面的・多角的な思考を促す。	【工夫②】 ・場面の人物の気持ちや行為の理由を問うのではなく、主人公の生き方など、人物を問うことにより、主人公の生き方の背景にある道徳的価値を多面的・多角的に考えることができるようにする。 【工夫③】 ・ワークシートに自分の考えを書く活動を十分に確保するとともに、全体交流において、児童の発言に対して、教師が考えの理由などを問い返すことにより、自己理解を促す。
	● 自己を見つめる。 ○ 世界の人々と仲よくするために、自分はどういうことができると思いますか。 ・相手の気持ちを大切に、広い心を持ちたい。 ・他国の伝統や文化について知り、国際交流で積極的に話したい。 ・英語を勉強して、平和のためになるような仕事に就きたい。	・国際親善に努めることについて、自分なりの考えをワークシートに記述し、交流させる。 ■ 進んで他国の人々とつながり、交流活動を進めたりより親しくしたりすることの大切さについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。	【工夫④】 ・ねらいとする道徳的価値を自分との関わりで深め、今後の発展につなげるために、国際親善のためにできることについて、ワークシートにまとめさせる。
終 末	● 教師の説話を聞く。 ※これまでの経験から教師が他国の人々と交流した経験などについて話をする。	・国際親善に努めようとする態度が育まれるようにする。	

6 板書



7 ノート・ワークシート

<p>10/12 名前 _____</p> <p>国際親善に努める</p> <p>① (『新渡戸裁定』が最善の選択として受け入れられたのはなぜですか)</p> <p>オランダ諸島はフィンランドの領土にしたがって住民のくらしのことなども考えるよ公用語はスウェーデン語にしたからくらしのことなども考えられていいと思った。</p> <p>② (世界の人々と仲よくするために、自分はどんなことができると思いますか)</p> <p>戦争争ひをおこなうためにどちらにも公平な考え方をしたらいいと思う。何が出来るかわからないけど自分にできることをやってみようと思う。</p>	<p>10/12 名前 _____</p> <p>国際親善に努める</p> <p>① (『新渡戸裁定』が最善の選択として受け入れられたのはなぜですか)</p> <p>両国の決まり事どちらも不安にならないよが意見を出してあげたら、フィンランドもスウェーデンも公平にくらせるようになったから、願い。</p> <p>② (世界の人々と仲よくするために、自分はどんなことができると思いますか)</p> <p>たくさん勉強して色々な国の言葉を話せるようにして他の国へ行って友達になりたい。国際交流でも話して他の国の事をし、学びたい。</p>	<p>10/12 名前 _____</p> <p>国際親善に努める</p> <p>① (『新渡戸裁定』が最善の選択として受け入れられたのはなぜですか)</p> <p>両国に不利のない選択をしたから。そしてオランダ諸島が使いやすいスウェーデン語を公用語にしてくれたなどオランダ諸島にもやさしい選択してくれたから。公平 住民を不安にさせない。</p> <p>② (世界の人々と仲よくするために、自分はどんなことができると思いますか)</p> <p>どこの国でもその国の事を考えてせしたり行動する。ゆずり合う、協力をし意見や質問をして親しみやすくする。他の国の事をしっかり勉強しながら他の国からいろんなことも知って欲しいのよとひいきさせる。いろいろな外国語を学ぶ。</p>
--	---	---

【授業実践を振り返って】

〔教材の内容理解に係る工夫〕

児童は、オランダ諸島の帰属問題についての知識がないため、帰属問題と「新渡戸裁定」との関わりについてある程度理解していなければ、「新渡戸裁定」が高く評価されていることや、なぜ受け入れられたかを考えることは難しいと考えました。

そこで、地図上のスウェーデン及びフィンランドを色分けし、オランダ諸島の帰属の変遷と「新渡戸裁定」との関わりを簡単に説明することで、児童が新渡戸稲造に共感し、「国際理解・国際親善」について考えを深めることができました。

〔中心的な発問の工夫〕

伝統や文化を理解し、尊重し合うことの大切さについて自分との関わりで多面的・多角的に考えることができるよう、中心的な発問で『新渡戸裁定』が最善の選択として受け入れられたのはなぜでしょうか。」と問いかけることで、児童は、「島の住民の願い」や「両国の利益」、「領土問題の解決に必要なこと」など、多面的・多角的な視点から「国際理解・国際親善」について考え、価値理解や自己理解を深めることができました。